# 大井川におけるかわまちづくり
# いつもの景色の向こう側へ
# ～蓬莱橋右岸もにぎやかな「かわまち」～

杉村　一樹[1]

[1] 静岡河川事務所　工務課（〒420-0068 静岡市葵区田町3丁目108番地）

2021年3月に「かわまちづくり」支援制度実施要綱に基づき登録を受けた島田市の大井川蓬莱橋右岸かわまちづくり計画．事業化に向け島田市，民間事業者，国土交通省とが連携した当該地区での社会実験の取り組みについて報告する．社会実験によって地域のニーズを洗い出し，水辺空間の整備を具体化することで，今後の河川整備に反映するものである．

キーワード　島田市，蓬莱橋，かわまちづくり，歴史，地域活性化，地域連携

## 1. はじめに

島田市は大井川の中流部に位置し，大井川を挟む東海道の宿場町として，大井川を川越する人々でにぎわった場所でもある．

大井川には，世界一の長さを誇る木造歩道橋の蓬莱橋が架かっている．明治期に牧之原の茶畑が開墾され，それに伴い島田からの農道として架けられた蓬莱橋は，県外からも多くの観光客が訪れる観光名所となっている．さらには，時代劇等のロケ地としても活用されている．なお，蓬莱橋は木造橋として世界一の長さが認められ，ギネスブックにも登録されている．

こうした特性を生かし，島田市では，大井川を軸としたまちづくりを進めており，世界一長い木造歩道橋「蓬莱橋」とその周辺の水辺を「観光・交流」「にぎわい」「憩いの場」を創出できる拠点として活用する取り組みを進めている．本報告は「かわまちづくり支援制度」を活用し，地域活性化を目指した取組を紹介する．

図 1　島田市蓬莱橋の位置図

## 2. 大井川蓬莱橋右岸かわまちづくり

### (1) かわまちづくりとは

かわまちづくり事業とは，まちづくりにおいて河川空間を積極的に活かすことを目指し，河川とそれに繋がるまちを活性化する取り組みである．事業の推進に向けては「かわまちづくり支援制度」が設けられており，同制度は河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため，観光基盤となる「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし，市町村，民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下，「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指すものである[1]．また，河川利用の面においては占用許可の緩和により2011年3月から全国の河川で，民間事業者が飲食店，オープンカフェ，広告板，照明・音響施設，バーベキュー場等を設営することが可能になったことから様々な利用スタイルでの動きが広がっている．狩野川では「かのがわ風のテラス」にて，民間事業者によりバーベキューやカヤックの体験が提供されている．

図 1　かのがわ風のテラス（狩野川）[2]

### (2) 大井川蓬莱橋右岸かわまちづくり計画

①大井川蓬莱橋周辺でのかわまちづくりの状況について

蓬莱橋はドラマや映画の舞台になるなど，島田市の代表的な観光スポットとなっており，令和3年には約9万人もの観光客が蓬莱橋を訪れている．大井川沿川には蓬莱橋に加え川越遺跡等の歴史的施設やマラソンコース「リバティ」等の運動施設が整備されており，観光振興や地域活性化に向けたポテンシャルが非常に高いエリアとなっている．

しかし，蓬莱橋周辺は利便施設や河川へのアクセス性が課題となっており，地域住民や観光客からはより良い整備を望む声が多く上がっていた．

このような中，「島田市大井川ミズベリング協議会」が設立され「蓬莱橋」の左岸側を中心とした「大井川宝来地区かわまちづくり計画」が2017年3月に登録された．

図 2　蓬莱橋

「大井川宝来地区かわまちづくり計画」において計画されていた整備内容に沿って，蓬莱橋左岸側ではこれまでに，番小屋・物販所，広場，休憩場所・トイレ，緩傾斜階段，坂路，駐車場等が整備されている．

これによって左岸側は魅力が向上している一方で，右岸側は，蓬莱橋の全長が897.4mと長く，アクセスが左岸からの徒歩に限られ，移動面で不利である右岸側の賑わい創出も求められた．

そこで，令和2年度には，蓬莱橋右岸側を対象に，活用や整備を議論する検討部会を開催した．検討部会はミズベリング協議会の下部組織として立ち上げたものであり，市役所の若手職員や，市民が参加した．

検討部会参加者により，高水敷の広場・トイレ・散策路などの整備や民間事業者等と連携したオープンカフェやデイキャンプ場などの活用（図 3）が検討され，2021年3月には「大井川蓬莱橋右岸地区かわまちづくり」が「かわまちづくり支援制度に係る計画」に登録された．

図 3　大井川蓬莱橋右岸側の整備・活用イメージ

②大井川蓬莱橋右岸周辺の現状整理結果（利活用状況の課題）について

右岸側の課題として挙げられる移動面の不利により，整備によって魅力が向上した左岸からの渡橋者も右岸までたどり着く前に引き返してしまっていた．このように両岸の結び付きが弱いことに加え，蓬莱橋と他地点をつなぐ広域の活用が不十分であり，島田市のまちとのつながりも薄いことが課題であった．

賑わい創出のための整備・活用イメージを具体化させる上では，上記の課題を解消することが必須である．

宝来地区の整備により左岸に人が集まりやすい状況が生まれていることから，両岸の魅力を高めて結びつきを強化し，左岸から右岸へ人の流れをつくること，そこから蓬莱橋一帯の拠点性を向上させ，周辺の拠点との回遊性を強めていくことを念頭に計画を進めていくこととした．（図 4）

図 4　周辺拠点との回遊イメージ

③大井川蓬莱橋右岸かわまちづくり事業での狙い

島田市では，大井川を軸とした地域の活性化を目指し，世界一長い木造歩道橋「蓬莱橋」とその周辺の水辺を「観光・交流」「にぎわい」「憩いの場」を創出できる拠点として活用する取り組みを進めている．

この島田市の取り組みと合わせて「大井川蓬莱橋右岸地区かわまちづくり」では，島田市と国土交通省が連携した整備計画を立案している．表 1および図 5のような

役割分担のもと，必要となる河川管理施設を国交省として整備していく．

なお，既に該当箇所は河川敷地占用許可準則22条に基づく，都市・地域再生等利用区域に申請を行い，指定されている．

表 1　蓬莱橋右岸側の整備計画における役割分担

| | |
|---|---|
| 国土交通省 | 河川管理用通路，坂路，基盤整備・整地，親水護岸 等 |
| 島田市 | 広場の張芝等，トイレ，遊歩道，案内サイン，小径整備 等 |

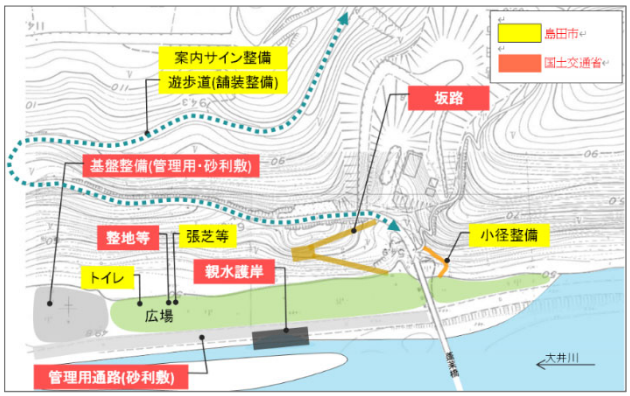



図 5　蓬莱橋右岸側整備概要図

## 3.　事業の推進・充実に向けた検討

整備による効果を最大化するために，その場の利用用途を明らかにし，そのために必要な整備を明確にする必要がある．そこで，蓬莱橋右岸において想定される活用方針に沿ったイベント等の社会実験を実施し，検証を行った．

### (1) 社会実験の企画検討

社会実験においては，島田市や地元関係者との連携が重要であることから，島田市と計画策定時の蓬莱橋右岸側地区検討部会参加者に地元代表を加えたメンバーで，企画検討部会を設立した．なお，企画検討部会は，島田市大井川ミズベリング協議会に承認を得て設置し，令和3年8月～12月に計3回開催した．

社会実験としては，主に島田市が公募により募集するイベント企画に加え，国交省からプラスαの企画を提案，運営することで支援した．このプラスαの企画について，企画検討部会にて検討した．

企画検討部会では，右岸側に求めることとして3つの方向性が挙げられた．具体的には，①左岸から右岸に人の流れを作るとともに，②歴史や文化が感じられる場所，③市民の憩いの場であり魅力のある場所とすることである．そこから，右岸のポテンシャルを活かした企画案を提案した．（図 6）

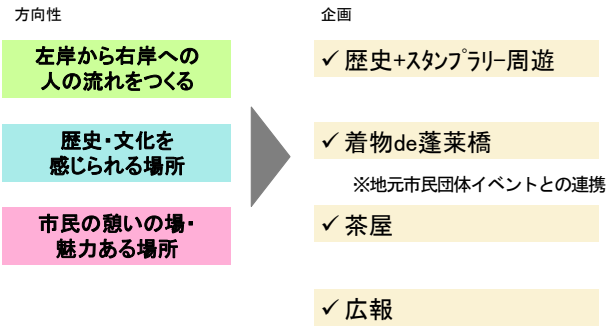



図 6　企画案

さらに，ワークショップなどを通じて，社会実験のイベントキャッチコピーを検討し，右岸側をどのように使っていきたいか意見を出し合っていった．（図 7）ここで出されたキャッチコピー「いつもの景色の向こう側へ…」には，いつもは左岸側からの景色を見ている地元市民に，向こう側になにがあるか，想像を膨らませてもらい，右岸へ訪れてほしいとの思いを込め，イベント全体の広報に用いた．

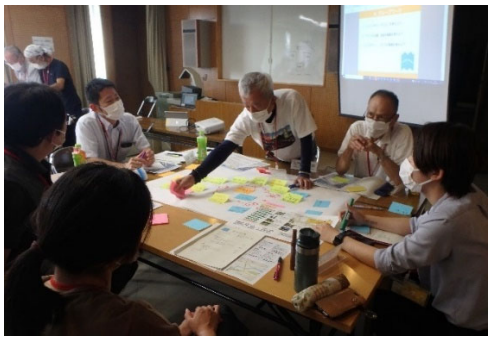


図 7　ワークショップの様子

イベント運営準備にあたっては，地元ボランティアや蓬莱橋周辺で活動している市民団体に協力を依頼し，多様な主体が関わることを目指した．

広報については，社会実験を宣伝するために，実施期間および公募企画を含めて企画概要を掲載したポスターを作成した．（図 8）作成したポスターは，島田市観光課，企画検討部会関係者等に配布を行った．

図 8　ポスター（左：表面，右：裏面）

また，SNSも活用することとし，島田市公式LINEアカウントでのPRのほか，社会実験としてもTwitterおよび

Instagramアカウントを開設し，運用することとした．

### (2) アクセス面での課題

蓬莱橋右岸側へのアクセス性を向上させ訪問者を増加させることは社会実験にとって重要であり，公募企画ではキャンプやマルシェを予定していたため運営側の荷物搬入も含め，高水敷への車でのアクセスが必須であった．企画当初は，蓬莱橋より下流の谷口橋から工事用の仮設道を通り車で高水敷にアクセスすることが可能となっていた．（図 9）しかし，仮設道の一部が令和3年8月の出水で侵食を受け流出したため，それ以降は右岸側高水敷への自家用車でのアクセスは不可能となった．

さらに，蓬莱橋右岸側周辺には駐車可能なスペースがないため，橋のたもとから離れた場所ではあるが仮設駐車場を確保して左岸からの徒歩以外の選択肢を確保した．また，公募企画の運営用には蓬莱橋のたもとから高水敷へ荷物搬入用のリフトを設置した．

図 9　右岸側高水敷へのアクセス路

### (3) 社会実験の実施

社会実験は令和3年11月7日から28日まで実施した．主に週末（土・日曜）で公募およびプラスα企画のイベント，平日も含めて期間中に蓬莱橋と周辺施設等の周遊をねらったスマホラリーを開催した．詳細は以下に示す．

#### ①蓬莱橋スマホラリー

期間中に常時参加可能としてスマホを活用したスタンプラリー．蓬莱橋周辺のスポットに加えて，島田市内の観光スポットを周遊することで景品をプレゼントする企画とした．

参加者はおよそ100名であり，アンケート結果からも満足度の高いイベントで周辺との回遊性が集客に寄与することを確認した．

#### ②蓬莱橋クイズラリー

蓬莱橋と右岸側史跡について案内を受けながらクイズを解いてめぐるイベントを現地のボランティアガイドにの協力のもと実施した．

参加者は2日間で120名以上となり，地元団体が実施しうる企画を具体化することができた．

#### ③着物de蓬莱橋

地元市民団体によって島田市内各地で開催されている着物を着て史跡をめぐる企画を蓬莱橋で実施した．

参加者は1日で100名近くに上り，地元団体が主体となって企画運営する可能性を見出した．

#### ④野点（お茶どころ）

右岸の橋のたもとで地元の島田茶，川根茶の民間事業者が出店し，高水敷に休憩場所を提供した．

2日間で150名程度が訪れたものの，売り上げになかなか結び付かない結果となった．宣伝の強化やより集客しやすいイベント形態の模索が課題となった．

#### ⑤広報（SNS）

期間中の告知や実施報告をSNSで行うことで，広範囲でリアルタイムの情報展開を図った．

ツイッターやインスタグラムでは投稿後にすぐいいねといった反響が確認され，宣伝ツールとして狙い通りに機能することを確認した．

こうしたイベントによって右岸側には最大1700名/日が集まった．イベント開催にともなって渡橋者数もおおむね増加（図 10），直近3か年での同時期の渡橋者数と比較しても増加していることから（図 11），コロナ禍で落ち込んだ賑わいを創出できたと考えられる．

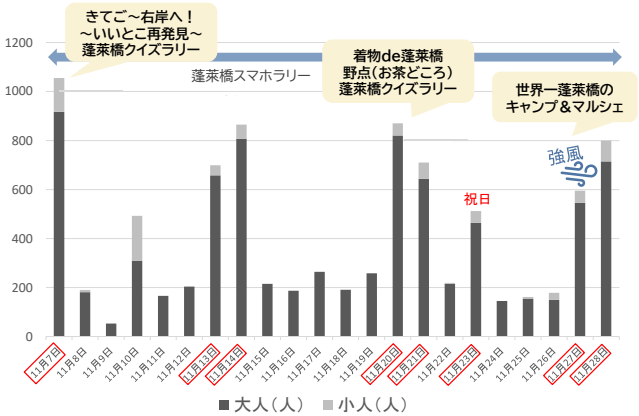



図 10　期間中の渡橋者数推移

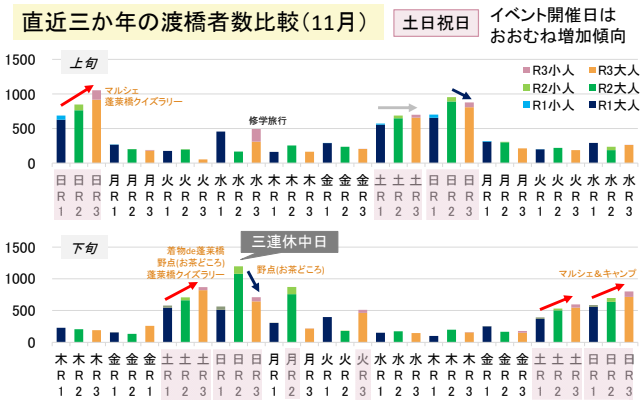



図 11　直近三か年の渡橋者数比較

また，訪問者へのアンケートからは，以下のことが読み取れた．

- 主なイベント参加者は島田市内およびその近郊であった（図 12）
- 満足度の高いイベントとなった（図 13）
- 河原の駐車場，河川敷への階段やスロープなど右岸河川敷へのアクセスしやすい整備が求められている（図 14）

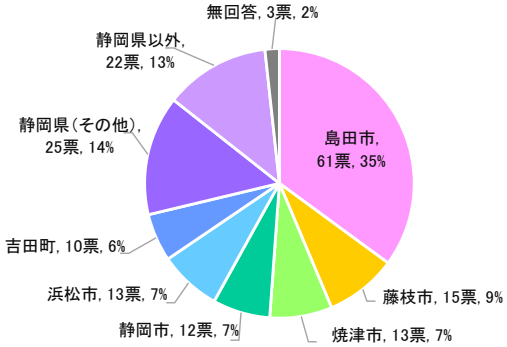



図 12　アンケート設問「住まい」の回答

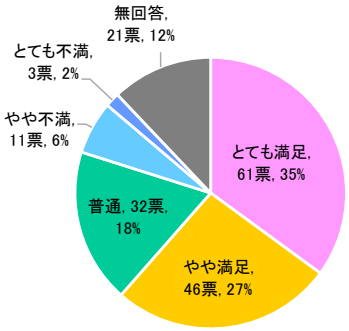



図 13　アンケート設問「イベント満足度」の回答

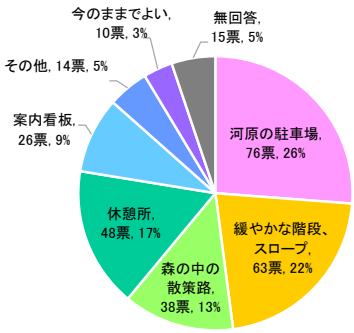



図 14　アンケート設問
「右岸活用に必要なアクセス手段, 施設」の回答

### (3) 社会実験の課題整理

社会実験の実施後には，運営関係者にヒアリングを行った結果もふまえて企画検討部会メンバーにて社会実験での成果や課題等について整理した．

まず，社会実験の成果としては，整備をしていない段階でも，工夫しながらイベントを開催できたことや，キャンプ等のイベントを実施し得る場所のポテンシャルを確認できたことが挙げられた．

そして，右岸側を活用するにあたっての課題（整備が必要なもの）を明らかにした．

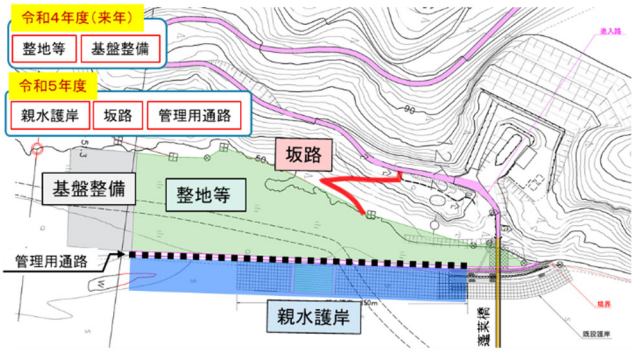
**【必要な整備として挙げられた項目】**
- **車でのアクセス路，右岸に近い駐車場**
- **河川敷へ降りる安全な道**
- **河川敷の整地**
- **トイレ・電気・水道　　など**

以上より，計画時に想定している利用用途，整備が地域のニーズと合致しており，整備計画を実現していくことが重要であることが明らかになった．

これに加えて，周辺景観との調和を求める意見やイベントとしての場ではなく，市民が自由に活用できるような空間にしていきたいとの意見も得られた．このニーズを取り込んだ整備を実施していくことが必要である．

ソフト面（利用・運営）についても，官民連携による運営を目指すことなどが挙げられた．今後も国交省として引き続き支援していくことが重要である．

そして，以上の検証をふまえて，整備の具体化を進めた．（図 15）令和4年および5年に右岸高水敷を中心とした整備計画を決定し，高水敷や水際部への導線が確保されることでアクセス面の改善も期待できると考える．




工程：令和4～5年度に国土交通省が改修し，その後に島田市が改修予定（案内サインや遊歩道・小径の整備，張芝等）

（整備詳細）

| | | |
|---|---|---|
| 整地等 | ： | 草本の根を取り除き，整地する |
| 基盤整備 | ： | 駐車スペース，砂利を敷く |
| 親水護岸 | ： | 玉石張の護岸，階段を配置 |
| 坂路 | ： | 小径とは別の歩道を改築し歩きやすくする |

図 15　整備案概略

## 4. 今後の取り組み

令和4年度秋より，工程通りに基盤整備から着手する．今後は，蓬莱橋より下流の谷口橋からのアクセスルートも整備予定であり，蓬莱橋右岸側へのアクセス性向上が期待できる．これらにより，蓬莱橋を活用した一層の観光振興が図られるとともに，賑わいのある水辺空間の創出により地域の活性化に寄与するものと考える．

## 5. おわりに

「大井川宝来地区かわまちづくり計画」が2017年3月に登録され，現在まで整備を実施しており，2021年3月には「大井川蓬莱橋右岸かわまちづくり計画」が新たに登録された．現在は新型コロナウイルス流行により全国的に観光地の人出が減少し，蓬莱橋についても例外ではなく観光客は減少している．アフターコロナを見据え，蓬莱橋をはじめとするの魅力ある既存施設を活かし，左右岸一体となったかわまちづくり計画による蓬莱橋周辺の新たな整備を進めていく.これより魅力的となった宝来地区を訪れる利用者がコロナウイルス流行前より増加することが想定され，宝来地区の賑わいが大井川流域に広がっていき，地域活性化に寄与することも期待される.今後も島田市や関係団体と協力をして，水辺のにぎわいの創出をしていきたい.

参考文献

1) 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課：「かわまちづくり」支援制度実施要綱

2) 国土交通省水管理・国土保全局：河川空間のオープン化活用事例集